

第3号様式（第4条第1項）

平成28年12月16日

君津市議会議長 安藤敬治様

総務常任委員長 加藤喜代美

行政視察結果報告書

君津市議会行政視察取扱要綱第4条第1項の規定により、次のとおり報告書を提出します。

記

- 1 期 日 平成28年10月6日（木）から  
平成28年10月7日（金）まで
- 2 視 察 先 山口県宇部市・広島県呉市
- 3 調査事項  
(1) シティセールスについて（宇部市）  
(2) 公共施設管理について（呉市）
- 4 参加議員 加藤喜代美、須永和良、野上慎治、松本裕次郎、  
池田文男、小倉靖幸、鈴木良次、鵜田剛
- 5 経 費 別紙のとおり

総務常任委員会 行政視察経費

①宿泊日当 (14,800円×1泊+3,000円×2日)×8人=166,400円

②旅客運賃代 296,000円

③中型バス 145,000円

④高速バス料金 18,400円=(1,350円×2回)×8人のうち

⑤有料道路代 5,850円

⑥視察先手土産代 6,000円

⑦車賃 5,250円

合 計 642,900円

## 山口県宇部市

日 時：平成28年10月6日（木）午後1時30分から3時00分まで

場 所：山口県宇部市

出席者：宇部市議会事務局 次長 西丸氏

宇部市広報・シティセールス部広報・シティセールス課 濱田氏

宇部市議会事務局 岡田氏

### 1. 宇部市の概要について ※（ ）内は君津市

人 口：168千人（86） 面 積：286km<sup>2</sup>（318）

一般会計：638億円（281） 議 員 数：28名（24）

本州の西端、山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海の周防灘に面する化学工業都市。石炭産業で発展したが、第二次世界大戦後は、エネルギー需要構造に対応し近代的な工業都市となった。すみよい街づくりを目指す市民運動から野外彫刻展を開催し、現在も「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」を開催するなど、まち全体が野外彫刻の美術館となっている。

### 2. 調査事項について

シティセールスについて

山口県宇部市では、平成25年に宇部市シティセールス基本方針を策定。都市が持つ様々な魅力を対外的に、より効果的にアピールし、観光客の増加、特産品の販売促進、交流人口や定住者の増加等を目的に、都市の活性化を図っている。

三つの戦略目標として、

- ・宇部ブランドの確立・認知度向上
- ・市民の誇りや愛着心の向上
- ・宇部の特性を生かした魅力ある資源の創出

があり、さらにセールスポイントを三つに絞り込んで分散しないようにしている。

そのポイントが、

- ・「彫刻のあるまちとときわ公園」「UBEビエンナーレ」

- ・「産業観光」「うべふるさとツーリズム」
- ・「食（グルメ）」

である。

これらの絞り込んだセールスポイントについて、それぞれさらに以下の三つのプロジェクトを展開している。

- ・イメージアップ戦略
- ・シティセールスパートナー戦略
- ・宇部ブランドによる観光集客戦略

### 3. 所 感

シティセールスにおいて、目標を立て、ポイントを絞り込み、戦略を実行する。という流れは明確であり、良い印象を受けた。

特に、対外的に発信するにはあれもこれもではぼやけてしまう、選択と集中が必要であることが理解できた。しかし、このポイントの絞り込みは誰がどの基準で行ったのか、市民からしてみれば地元にある観光地は重点ポイントにして欲しいだろう。選択を公正公平に行う必要があるので非常に難しいと思った。

また、こういった事業は時間が過ぎるとトーンダウンする事も多く、今後定着されるのか注視していきたい。

また成果の判断が難しく、認知度ランキングや住みやすさランキング、定住人口、観光客数等が考えられるが、シティセールスの明確な成果数値の回答は得られなかった。

宇部市ではシティセールス課シティセールス係を置いているが、これは観光部署や企業誘致の部署、広報等が連携すれば出来る事だとも考えられる。

君津市においてはまだ検討が必要であると感じられた。



## 広島県呉市

日 時：平成 28 年 10 月 7 日（金）午前 10 時 00 分から 11 時 30 分まで

場 所：広島県呉市

出席者：呉市議会 副議長 池庄司氏

呉市企画部資産経営課 主幹 岩田氏

〃 主査 稲葉氏

呉市議会事務局 副主任 平川氏

### 1. 呉市の概要について ※( )内は君津市

人 口：232千人（86） 面 積：352km<sup>2</sup>（318）

一般会計：980億円（281） 議 員 数：32名（24）

瀬戸内海のほぼ中央部、広島県の南西部に位置し、政令指定都市である広島市から約18km、東広島市から約26km、広島空港から約39kmの距離にある。明治22年の呉鎮守府の開庁とともに本格的な海軍基地の建設が進められた。最盛期の昭和18年には人口40万人を越える日本一の海軍工廠を擁するまちとして発展。終戦による海軍の解体とともに、呉港を中心に造船や鉄鋼などのものづくり産業基盤が形成された。

### 2. 調査事項について

#### 公共施設管理について

広島県呉市では昭和30年代からの人口の急増に伴い多くの公共施設を整備してきた。しかし、現在では築30年以上の施設が全体の41%を占め、著しい老朽化と人口減少・高齢化等により市民ニーズのない施設が増えている。

大きく変化した社会情勢と多様化したニーズに対応するため、公共施設の再配置に着手した。

平成24年に第一次呉市公共施設再配置計画を策定、平成25年に第二次呉市公共施設再配置計画、平成26年に第三次呉市公共施設再配置計画を策定した。

特にサウンディング型（事業者提案型）市場調査に取り組んでいる。

### 3. 所 感

多くの老朽化した公共施設を抱えている状況は本市とほぼ一緒である。特に委員からの質問も集中したサウンディング型市場調査は興味深かった。

例えばAという公共施設があり、今までは行政側がこのAという施設を〇〇に使ってくれる人を公募します！というように使い方を決めていた。あるいはたまたま「〇〇に使いたいのですが貸してくれませんか？」と言われるのを待っていた。

しかし、サウンディング型では、まず事業の案を募集し、対話することから始める。この段階を踏むことにより需要や市場調査は民間が独自に行ってくれる事になり、民間のアイデア・ノウハウを反映し、行政では思いもよらない活用方法が出てくる可能性がある。

今までの待ちの姿勢から、積極的に活用方法を探すことになる。

そして活用可能な意見があればそれをもとに公募案を作成。これによって事業者の能力を最大限発揮できる条件設定が可能になる。

君津市でも前向きに検討すべき手法として大いに期待できる。

